

節分

校長 武井 正明

昨日は節分でした。皆さん豆まきは、お家でされましたか？

妻はこういう季節の行事はやるのが当たり前だという家庭に育ったので、最初はいやいや付き合わされているうちに、とうとう自分もやるのが当たり前になってしまいました。

小正月の行事どんど焼きは、その最たる例。結婚するまでは、全く経験も興味もなかったのですが、義理で参加しているうちに、いつしか妻よりも小正月を心待ちにするようになっていました。

正月が終わり、二週間経ち、ようやく新年の通常運転が、軌道に乗ってきた頃。

雪が舞うなか、門松やお飾りなどが燃え盛る。冬の冷気と炎の熱気の対比。明るく照らされる御近所さんたちの面々…。男衆に注がれた御神酒をちびちび飲みながら、スルメをかじって世間話…ああ、今年も始まったなあ、なんてしみじみ感じたものです。

もうそれも義母が数年前にお寺を離れてからは、すっかり疎遠になってしまいました。いつが最後だったかさえ思い出せません。檀家の人たちも、いい人ばかりで、よく可愛がってくださった。今では懐かしくも、遠い思い出です。

私が幼少の時分は、余興などなかったもので、節分は父がいつになく張り切ったものです。

でん六豆の、赤塚不二夫の、鬼の紙のお面を付けて、おどけながら逃げる親父に、二個下の弟とお袋と、狭い玄関先で「鬼は～外!!」と大声で叫びながら豆を投げた。昔は何処の家でも、よく見られた光景です。

両親にとって、お金はなかったけれど、笑いがあった。心は豊かだった、未来への希望だけはいっぱいあったあの頃が、一番しあわせな時代だったのかもしれない。それも私が中学に上がる頃には、もう全くやらなくなってしまっていました…。

昨日は娘も家にいました（これが結構よく帰ってきます）そこに今年は、行事大好き「邪気が抜けてく～」の義母が新たに加わりました。

帰宅すると、すぐに豆まきが始まりました。まず、ちょっとだけ外に豆を投げます。

「鬼は～外!!」童心に帰って、大きな声で窓外に落花生を放る義母。室内に撒いた豆やお菓子を一心不乱に掻き集めます。大雪の今冬、ほっと気持ちが安らぐひとときでした。

今は受験期の真っ最中。そして苦境に立っているあなた。苦しい時が勝負どころ。

「あの時は苦しかったけど、諦めずに頑張ってよかったなあ」と振り返る時が来ます。

もうちょっとの辛抱だ。頑張っているあなたに、必ず福が来ます。

だいじょうぶ。逃げずに壁に立ち向かっていこう。そして笑顔で春を迎えましょう!!